

目 標

■研究活動（フェーズⅡ：発展）

- ①指導現場で役立つ運動技能情報の精査とITシステムを開発する。
- ②女性参加者限定のスポーツ教室の効果検証とウォーキング・ランニングマップを作成する。
- ③天理市内のスポーツ資源の一元的な活用を検討する機会を構築する。
- ④専門指導者やトップアスリートによるスポーツ・運動指導システムの効果検証を行う。
- ⑤体力測定会の啓発と機会を整備するとともに測定参加者を増やす。
- ⑥障がい者との共助拡大と地域共生社会実現のためのスポーツ・運動のあり方を整備する。

■ブランディング戦略【ブランディングの認知（期待）】

前年に引き続き、本学が行っている研究事業の成果をシンポジウムや公開講座を通じて、積極的にステークホルダーに広報するとともに、本学ブランドの認知度を向上させる。外部評価委員会・自己点検評価委員会による自己評価とステークホルダーへの認知度を調査する。

実施計画

■研究活動

【地域スポーツ研究チーム】

- ①本学スポーツクラブで運動技能習得のための指導を受けた子どもに対して、専門競技移行後の追跡調査を行い低年齢期に行っておくべき身体の使い方を明らかにする。
- ②女性のスポーツ・運動実施率増加につながる行動要因を分析し指導プログラムを検討する。
- ③天理市スポーツ推進審議会によるスポーツ振興計画の指針作成、ワールドマスターズゲームズ2021KANSAIの啓蒙活動とボランティアとしての参加促進活動を行う。

【健康づくり研究チーム】

- ④養成した専門運動指導者とトップアスリートによる運動が苦手な児童・生徒に対するスポーツ教室を展開し、楽しむ機会からスポーツ参加率への影響を検討する。
- ⑤自宅にいる時間を利用して、下肢筋力を鍛える運動について活動筋の自覚的疲労感を基にしたプログラムが効果的か検討する。
- ⑥地域住民や学生を対象とした活動支援の担い手となる人材養成のための研修プログラムを開発し、人材循環の仕組みを構築する。

■ブランディング戦略

研究活動の成果を広く公表することで、本学のブランディング戦略が認知され、天理市地域に根ざした大学であることに満足を感じてもらえるように仕向ける。

■目標達成度の測定方法

高校教員や本学学生の保護者、卒業生に対して、これまで実施してきたブランディング戦略が有効に働いているか、アンケート調査から目標達成度を測定する。